

# IB(インターナショナル・バカロレア)と日本の 教育の融合を目指して

## 「大きな問い」

海外の文化を基盤とするIBは、日本文化に根差した私たちの学校文化を進化させうるのか？



なぜ、IBなのか？

⇒IBが多国籍の教育課程を通底する概念型の  
カリキュラムを採用しているから



IBの概念型学習を日本教育に取り込むことで、変化の激しい未来において、考え・判断し・課題解決し・創造できる力を育てる教育へと再構成できるのでは・・・

# 特定概念を常に意識して授業をする

## ※まだまだ概念＝知識になっている

### SPECIFIED CONCEPTS & Key questions

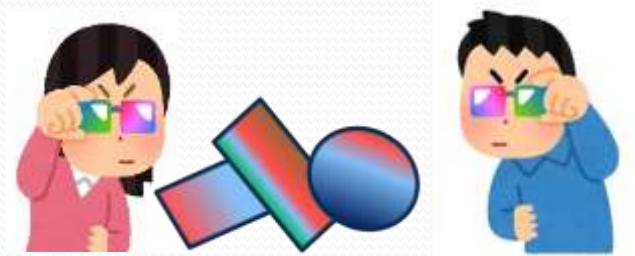
<b>Form</b> 特徴 それはどんなものだろう？ 	<b>Function</b> 機能 どんな働きをするのだろう？ 	<b>Causation</b> 原因 なぜそうなるのだろう？ 	<b>Change</b> 変化 どう変わっていくのだろう？ 
<b>Connection</b> 関連 他とどうつながっているの？ 	<b>Perspective</b> 視点 どのような見方があるのか？ 	<b>Responsibility</b> 責任 私たちは何をすべきか？ 	7つの重要概念を通して 理解を深める

**SPECIFIED CONCEPTS = ものの見方・考え方 → 客観的・多面的に考える力**

# IBの概念型学習をとりれいることで 幅広いコンテンツと協働が可能になる

概念による知識の一般化

例「文化的多様性と同一性」  
「誇り・自尊心」



プロセス概念による汎用化

例「批判的思考力（差別偏見を見抜く）」

それぞれの教科や領域の課題が、概念によって共通の地平に乗る  
＝教師の協働が可能になる。



## 概念で一般化した文



バラバラの事実を学習するのではなく、事実の裏にある普遍的な考え方＝概念を通して、事実をまとまり(統合)として学習する。

普遍的な考え方＝概念をつないだ考えを、ビッグアイデア(セントラルアイデア)と呼び、ここから逆向き設計をしていく。



# 概念型学習の記憶と理解

概念型学習



いわゆる暗記型学習

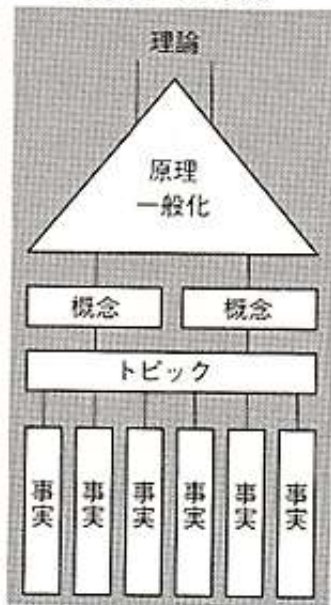


Big Idea「**戦争**は自らの**利益と価値観**を守るために起こる。」

No+e Tomotaka Jige より引用

「知識の構造」と「プロセスの構造」 出典：Erickson & Lanning (2014)

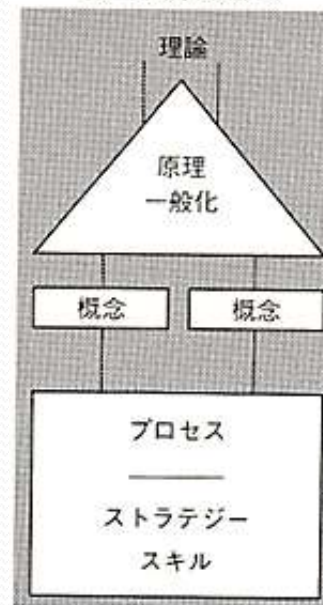
知識の構造  
エリクソン, ©1995



- **事実**は、個々の学習内容
- **トピック**は、事実のまとまり (江戸時代・電気など)
- **概念**は、普遍的な名詞 (思考物) (変化・視点・多様性など)
- **一般化**は、2つ以上の概念でできたビッグアイデア (セントラルアイデア)
- (「文化の多様性の中には共通性がある」など)

知るべきこと・理解するべきこと

プロセスの構造  
ラニング, ©2012



- **プロセス**は、個々の学習活動 (書く、読むなど)
- **スキル**は、思考力や表現力等
- **ストラテジー**は、スキルを効果的に活用・コントロールすること
- **一般化**は、「文化理解には批判的思考が必要である」など

できるようになるべきこと

# 教育課程特別部会・論点整理

令和7年9月25日

①主体的・対話的で深い学びの実装（Excellence）

②多様性の包摂(Equity)

③実現可能性の確保(Feasibility)

「多様な子供たちの深い学びを確かなものに」

## ①構造化

- 各教科等の「中核的な概念の深い理解」「複雑な課題の解決」（以下「中核的な概念等」という。）を中心に、学習指導要領の目標・内容の一層の「構造化」を図る観点から、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」に応じた中核的な概念等の具体について、共通性を重視しつつ、各教科等の特性も踏まえて検討すべき

※「見方・考え方」の整理は、資質・能力の一部と誤解される遠因になったことから、中核的な概念を含め資質・能力の育成を的確な方向に導く学びの本質的な意義として理解する。

＜生きて働く＞

## 知識及び技能

他の学習や生活の場面でも活用で

中核的な概念  
の深い理解

＜未知の状況にも対応できる＞

## 思考力、判断力、表現力等

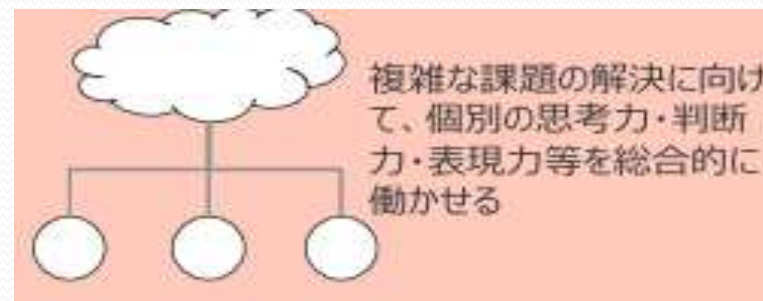
知識・技能を活用しながら、未知の場面でも課題を解決できる

複雑な課題の解決



### 個別の知識及び技能

教科の主要な概念の深い理解を獲得し、思考・判断・表現する上で必要な要素となる知識・技能を示す



### 個別の思考力、判断力、表現力等

複雑な課題の解決をする上で必要な要素となる思考力・判断力・表現力等を示す。



# 国際理解教育の16の目標概念

区分		目標	イメージ	内容
知識に関する概念	A	国際友好・平和		戦争や争いをなくし、平和を実現する
	B	文化的多様性と共通性		文化・伝統・歴史などの違いと共通性
	C	相互依存		グローバル社会における国レベルの相互依存関係
	D	持続可能性(SDGs)		未来においても世界がより良い状態になれるか
	E	公共性・公正(equity)		社会問題に公正な視点から向き合う
	F	民主主義		政治教育など民主主義社会に参加する準備をする
思考力・判断力・表現力等	A	偏見・差別・ステレオタイプを見抜く力 (批判的思考力)		不合理な信念や誤情報を見抜き、的確に判断する
	B	コミュニケーション力		相互理解を通じて合意形成する力
	C	課題解決能力		課題を発見・分析し、冷静に解決する力
	D	想像力・創造力		未知の世界を探究し、切り開く力
学びに向かう力・人間性	A	人権意識		すべての人間の尊厳を尊重する意識
	B	協力・助け合い・支えあい		協力し、助け合い、支えあうことの大切さ
	C	寛容・共感・エポケー		まず価値判断を一時停止(エポケー)して、他者を認め、 受容する態度
	D	誇り・自尊心		自らの文化を誇りに思い、自信をもって行動する
	E	責任・行動・挑戦		責任と勇気をもって新たなことへ挑戦する
	F	グローバルな意識		地球規模の課題を理解し、発言と行動を行う意識

# ～派遣教員の海外体験を一般化する～ (概念型カリキュラムへの挑戦)

海外での  
体験・実践

国際理解教育  
の目標から分  
析(概念さがし)

自分の国際理解  
教育へのビッグア  
イデア(セントラル  
アイデア)を創る

- ・こんな面白い実践・体験があった。
- ・みんなに伝えたい！
- ・子どもに伝えたい！
- ・発表の場がほしい！
- ・学校に取り入れたい！

- 事実から概念へ  
(体験の意味を考える)
- ・文化の多様性と共通性
  - ・自尊心と誇り
  - ・批判的な思考力  
(偏見や誤解からの解放)
  - ・グローバルな視点

- ・文化の多様性の根底には人として共通の思いがある。
- ・多文化共生の鍵は批判的思考力にある。
- ・自文化への誇りが異文化への共感を生む。

※土産話には賞味期限あり

※人のつながりは永遠の財産

# 派遣教員の経験と概念化のバランス

強烈なインパクト  
個人的な絆

派遣教員の  
個人的経験

広い働きかけ  
同僚との協働

分析された  
概念・方法



◆海外実践を目標概念で整理して  
国内実践の協働の種子としよう◆

## 海外

16の  
目標概念

- 多様性と共通性
- 批判的思考力
- 誇り・自尊心etc

実践から中核  
概念(種子)へ

海外実践の華々  
しい成果

在外教育施設



人との  
つながり

特別なインパクト  
個人的な経験  
派遣教員の  
個人的経験

近い働きかけ  
同僚との協働  
分析された  
概念・方法

## 国内

同僚教師と  
共に育てる



帰国後の赴任校

土産話・自分しかでき  
ない国際理解教育





# 「日本人学校のインターナショナル校化」



2倍以上

微増

保護者の日本人学校離れへの大きな危機感  
＋学校が持っている内向きの姿勢……

# 「地球的な視野を育てる教育」 ～学校の人的環境の多様性を促進させる～

当該国籍の児童生徒の割合(%)

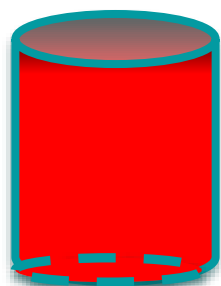
98%

0%

約27%

約26%

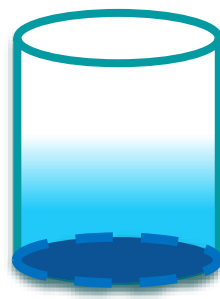
約38%



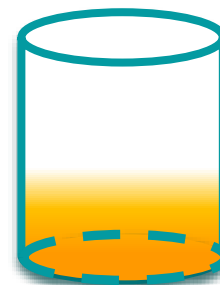
日本人学校



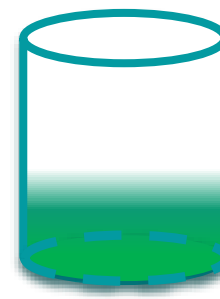
保護者のインター校のイメージ



アメリカ人学校



ドイツ人学校

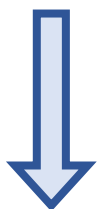


フランス人学校

※ インターナショナル校とは、インターナショナルな児童生徒に対して、ナショナルな教育課程をナショナルな言葉で学ぶ、世界に開かれた学校である。

他国の子どもたちにも開かれ、人的な多様性の中で地球的な視野を磨き、同時にその国の価値観を世界に発信する機能を持っている。

# 「在外教育施設における教育の振興に関する法律」 (令和4年6月)



可能性

## 背景

- ◎在外教育施設における教育の振興に関する施策を総合的かつ効果的に推進
- ◎次代の社会を担い、及び国際社会で活躍することができる豊かな人間性を備えた創造的な人材の育成に資する
- ◎国際相互理解の増進に寄与

## 基本理念

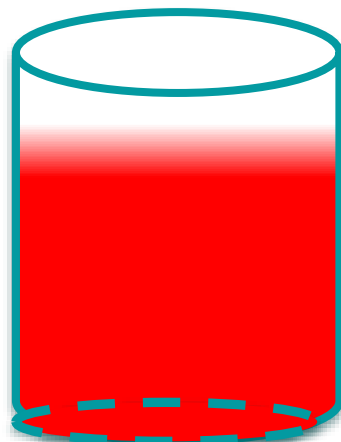
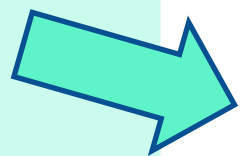
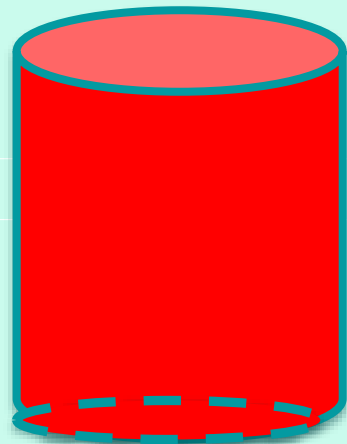
- 1) 在留邦人の子の教育を受ける機会の確保に万全を期する。
- 2) 在外教育施設と国内の学校の教育環境を同等水準とする。
- 3) 在留邦人の子の異なる文化を尊重する態度の涵養と我が国に対する諸外国の理解の増進が図られるようにする。

## 第13条

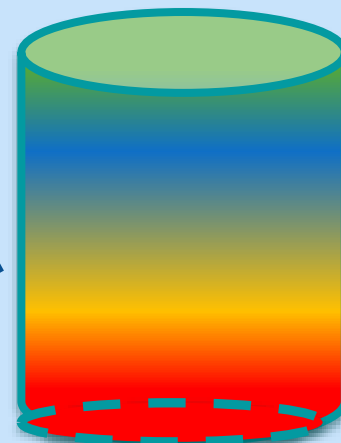
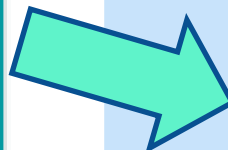
- 2) 国は、魅力増進活動に資する自主的な活動として、・・・在留邦人の子以外の者でその教育を希望するものの受入れその他の活動に、必要な情報の提供、助言その他の援助を行う。

# 「地球的な視野を育てる教育」～学校の人的環境の多様性を促進させる～

多国籍化 → 多文化化



日本人学校の  
インターナショナル化



日本人学校の  
インターナショナル校化

☆☆全世界的な調査結果からわかる課題☆☆

- 派遣教員の課題意識
- 学校のガバナンスの課題(ボランティアによる運営など)
- 学校運営の課題

現地法で一条校として認可されていない⇒相互編入や進路問題